

編集後記

今号も年内に出版することができました。年内出版が危ぶまれた原因は、例年は7月に受け取る教員業績目録用のデータが、10月になってやっと届いたからです。何とか年内に出版できたのは、総務担当の川村友香さん、井上まみさん、学務担当の下村総大さん、今井信博さん、伊藤印刷の近澤泰之さんはじめ、ご協力いただいた皆さま方のお陰です。皆様にはたいへん感謝いたします。

紀要を発行する意義は、研究科教員による研究活動の広報的な面が大きいと考えます。各分野に特化した研究論文はそれぞれの学会誌やジャーナルに掲載されており、Webで容易に検索され、ダウンロードすれば読むことができます。一方、紀要は、そのような専門学術誌に掲載されるような論文だけでなく、関連する報告も掲載するなど、懐の深い点が特徴です。研究データを取得するための苦労や楽しさなどを紹介する報告もあってよいと思います。

今号では、森や樹木に生息する線虫について新任教員に解説してもらうことができました。また、身近な伊勢湾の浜辺に打ち上げられたスナメリの個体数変動の観測を長年にわたって行った結果や、身近な食材であるキクラゲが属するキノコの形態分類の再検討など、多方面にわたる貴重な研究論文が含まれています。ご投稿くださった方々ならびに査読してくださった教員の皆さまにお礼申し上げます。

2021年12月

生物資源学研究科紀要編集委員長(47号) 木佐貫 博 光